土木部

安全な国土形成など柱に

――15年度県政説明会――

15年度県政説明会は21日、鹿児島市の県庁講堂で開かれ県内各市町村関係者ら約250人が出席、本庁各部長らが今年度当初予算の概要や、所管行政施策の基本的な方針等について説明した。

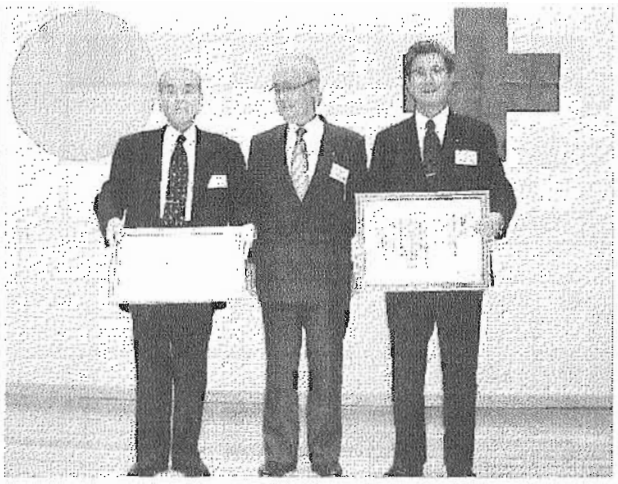
説明会では、初めに須賀龍郎県知事が「長期的な景気低迷が続くなか、高齢化社会、高度情報化など幅広い人材育成が求められている。また、14年度から実施している財政改革プログラムであらゆる面で重点的に見直し、所要の財源の確保に努めているものの、財政調整基金も15年度に75億円になり、厳しい見通しが予想される。また、21世紀新かごしま総合計画の第1期実施計画の最終年度でもあり、来年度から始まる第2期実施計画を今年度中に作成する。情報化については電子入札に向けたシステムの整備などに取り組むなど、必要な施策について、重点的かつ効率的な展開に努めるほか、市町村合併に関しても支援していきたい」と挨拶、市町村の理解と協力を求めた。

このあと、各所管事項の説明に入り、加藤憲一土木部長は、広域的な国内交流ネットワークの形成、災害に強い安全な国安全で快適なお住まいの実現の三つの柱を基本に事業展開する方針を示した。

広域的な国内交流ネットワークの形成では高規格幹線道路の川内隈之城道路等の区間において、14年12月に国からルート案が示されたことから都市計画決定に向けての素案を作成することなどを説明。また、港湾・空港の整備では鹿児島港の中央港区マリンポートかごしま整備や貨客兼用ターミナルなどの整備を着実に推進するほか、志布志港の新若浜地区において5ㅌ級岸壁（㊀14m）や防波堤等の整備を進めるとしている。

また、道路特定財源の確保や公共事業の入札・契約などの適正化に関する法律に伴う義務事項（指名基準や指名理由等）などを速やかに対応してほしいと補足した。

電子入札システムを整備することも報告した説明会＝鹿児島市の県庁で



功労表彰で表彰状を手にする林氏（左端）と斉藤氏（右端）＝鹿屋市のホテルさつき苑で

協同組合鹿屋建友会が40周年

相互扶助の精神で前進

協同組合鹿屋建友会（小林正義理事長）は20日、鹿屋市のホテルさつき苑で創立40周年記念式典と祝賀会を開き、鹿屋土木事務所長、鹿屋市長、国・県・市議会議員、関連会社ら約120人が出席して組合発足40年を祝い功労者の表彰も行った。

式典では冒頭、小林理事長が組合の歴史を紹介し「会員皆様方をはじめとし関係団体のご支援ご協力で40年を迎えられたことに感謝します。節目を迎え厳しい状況化ではありますが、社会的使命と会員相互扶助の精神をもって頑張っていきます。今まで以上のご支援をお願いします」と挨拶。歴代理事長で12期24年の林東蔵氏（豊明建設㈱会長）と4期12年の斉藤實氏（斉藤建設㈱会長）の功労表彰を行った。

続いて、二俣文生県鹿屋土木事務所長、山下栄鹿屋市長、山中貞伸山中貞則衆議院議員秘書が「素晴らしい団結力で乗り切ってほしい」と祝辞を寄せ、山田宏之県議会議員の乾杯で祝賀会が始まった。更なる発展を誓い、梅木一宏専務理事（斉藤建設㈱代表取締役）が閉会を宣言した。

同組合の沿革は、昭和33年4月鹿屋市在住の建築業者をもって親睦団体として発足、昭和38年4月県知事の許可を受け現組合が発足した。同年5月社団法人県建築協会に加入、大隅地域の垂水・肝属郡を含めた会員で構成、現在27社。

九州農政局

中岳ダム定礎式典

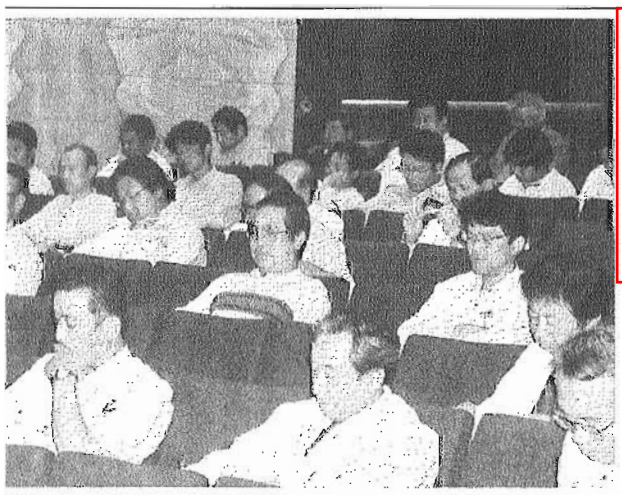
工事の無事安全を祈る

九州農政局が進める中岳ダム（国営曽於東部農業水利事業）定礎式典が20日、ダム施工現場の曽於郡末吉町南之郷で開かれ、関係者約180人が出席して工事の安全を祈った。曽於郡東部に位置する末吉町、松山町、志布志町にまたがる約3130㌶の畑地にいきわたる農業用水の水源施設である同ダムが堤体の盛り立て実施することで行われた。また本体及び関連工事の完成を17年度内で目指す。

当日は、定礎式に先立ち中岳ダム建設工事共同企業体が修祓式を行った後、式典では大串和紀九州農政局長が昭和59年に同事業が着工した工事報告を行い、富松義晴飛島建設㈱代表取締役が施工者を代表して挨拶を祝った。

同工事の概要は、ダム＝中心遮水ゾーン型ロックフィルムダム▽高岡頭首工＝固定堰▽用水路＝2㎞▽揚水機場＝2カ所▽調整地＝1カ所▽フォアバーボンド＝8カ所。14年度末の進捗率は86・8％。

地元小学生のくす玉開きで祝った式典＝末吉町の現地で



届け出の留意点を熱心に聴き入る現場代理人ら＝鹿児島市の県歴史資料センター黎明館で

県建築協会 計画届作成説明会

正しい計画・設置届を

県建築協会（内村實会長）は21日、鹿児島市の県歴史資料センター黎明館で計画届作成に関する説明会を開き、会員事業所の現場代理人ら約100人が、計画・設置届の正しい作成方法と届け出の留意点などを学んだ。

説明会の講師は鹿児島労働基準監督署の三尾野敦裕産業安全専門官が務め、最近の労働災害発生状況を紹介した後、建築工事計画・設置届作成のテキストを基に、型わく支保工の「支柱」の解釈と設置・変更届作成要領と正しい届け出の仕方を詳しく説明した。

鹿児島労基署管内では14年度、約850件の計画・設置届等を受け付けたが、うち約4割に不備があり、改善、追加指導をする一方、計画変更命令、勧告も行ったという。

FRP内面補修工法協会 技術研修会

短い工期 効率的に管路更正

FRP内面補修工法協会は20日、鹿児島市の鹿児島食品雑貨流通センターで下水道FRP内面補修工法技術研修会を開き、下水管や排水管の損傷個所を部分補修する非開削工法「FRP内面補修工法」のデモンストレーションを行った。

当日は、午前中に技術研修会として、エスジーシー下水道センター㈱の日沼顕啓社長らが同工法の技術面や積算・ソフトウェア等の説明を行った後、午後から工事関係者ら約100人が見守る中、同協会会員・㈱サニタリーの社員ら約10人が下水道本管と取付管を一体型で補修する熱硬化工法と光硬化工法のほか、光硬化取付管ライニング工法のデモンストレーションを模擬管を用いて実施した。参加者は、実際に施工された補修材を確認するなど、短い工期で効率的かつ経済的な管路の更正を行える同工法について認識を深めた。

同工法は、既設のマンホールからTVカメラを用いて、下水管や排水管のクラックや継手部の不良損傷個所を部分的に補修する非開削工法。主な施工方法としては、硬化前のFRP（ガラス繊維、ポリエステル）を送り込んで管内壁に密着させ、ヒーターで加温して硬化させる「熱硬化」とUVランプで硬化させる「光硬化」の2種類がある。

過酷な条件下で使用されている管路は、常に維持管理の必要性があり、さまざまな補修の方法がある一方で、下水管渠が埋設された道路には、電気、ガス、水道なども埋設され、開削による布設替えは容易ではない。また、長期の開削補修工事は交通障害や近隣住民への悪影響を及ぼしかねない可能性があるが、同工法はこの問題を解消し、既設管路内のいろいろな損傷に対して、短い工期で効率的かつ経済的な管路の更正を実現している。

鹿児島市下水道課の担当者は「本市での管路補修は開削によるものが多いが、同工法は非開削で本管から作業できるのが良い。従来の工法等との技術的な整合を図り、確立すれば今後の用途拡大にもつながるのでは」と興味深く語った。

模擬管に施工された補修材を確認する参加者＝鹿児島市の鹿児島食品雑貨流通センターで